(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B1)　(11)特許番号
特許第6230745号
(P6230745)
(45)発行日　平成29年11月15日(2017.11.15)　(24)登録日　平成29年10月27日(2017.10.27)

(51)Int.Cl.			F I		
A62B	17/04	(2006.01)	A62B	17/04	Z
A61F	9/06	(2006.01)	A61F	9/06	370A
A41D	13/11	(2006.01)	A41D	13/11	A
A42B	1/04	(2006.01)	A42B	1/04	A

請求項の数 3　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願2017-155371 (P2017-155371)
(22)出願日　平成29年8月10日 (2017.8.10)
審査請求日　平成29年8月22日 (2017.8.22)

早期審査対象出願

(73)特許権者　517282414
宮成　康一
富山県富山市水橋市田袋１５３番７
(74)代理人　100136331
弁理士　小林　陽一
(72)発明者　宮成　康一
富山県富山市水橋市田袋１５３番７

審査官　稲村　正義

最終頁に続く

(54)【発明の名称】作業用頭巾

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
頭部及び首部を覆う頭巾本体と、頭巾本体に設けたフェイスガードを備え、頭巾本体は、顔が覗く開口部を有し、フェイスガードは、頭巾本体の開口部の左右両側にまたがって設けてあり、目の周りと鼻及び口の周りを除いた部分を覆うことを特徴とする作業用頭巾。
【請求項２】
フェイスガードは、中間部で分離可能であることを特徴とする請求項１記載の作業用頭巾。
【請求項３】
フェイスガードは、左右の少なくとも一方の端部が頭巾本体に着脱自在であり、且つ取付位置を調整可能であることを特徴とする請求項１又は２記載の作業用頭巾。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、溶接または金属等の研磨作業を行う際に、保護メガネ及び防塵マスクと共に用いられる作業用頭巾に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、溶接や金属の研磨作業、ケレン作業等の作業を行う際には、作業者は非特許文献

１～３に示すような頭巾を被った上、保護メガネと防塵マスクを装着して作業を行っている。しかし、そのように頭巾と保護メガネと防塵マスクを装着していても、保護メガネと防塵マスクとの間の皮膚が露出するため、溶接面からもれるアーク光（紫外線）、飛来するスパッタ、スラグ、研磨屑等により、顔面をやけどや細かな金属飛散物による切創等することがあった。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【非特許文献１】“大郷頭巾”、[online]、[平成２９年８月８日検索]、インターネット＜ＵＲＬ:http://kenjin615.wixsite.com/zukin＞

【非特許文献２】“イトフク通販サイト溶接帽”、[online]、[平成２９年８月８日検索]、インターネット＜ＵＲＬ:http://www.itofuku.com/products/list.php?category_id=185＞

【非特許文献３】“いぬのふく ハンドメイド溶接頭巾”、[online]、[平成２９年８月８日検索]、インターネット＜ＵＲＬ: http://lovemydog4645.blog102.fc2.com/blog-entry-45.html＞

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

本発明は以上に述べた実情に鑑み、顔面のやけどや細かな切創等を確実に防止できる作業用頭巾の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

上記の課題を達成するために請求項１記載の発明による作業用頭巾は、頭部及び首部を覆う頭巾本体と、頭巾本体に設けたフェイスガードを備え、頭巾本体は、顔が覗く開口部を有し、フェイスガードは、頭巾本体の開口部の左右両側にまたがって設けてあり、目の周りと鼻及び口の周りを除いた部分を覆うことを特徴とする。

【０００６】

請求項２記載の発明による作業用頭巾は、請求項１記載の発明の構成に加え、フェイスガードは、中間部で分離可能であることを特徴とする。

【０００７】

請求項３記載の発明による作業用頭巾は、請求項１又は２記載の発明の構成に加え、フェイスガードは、左右の少なくとも一方の端部が頭巾本体に着脱自在であり、且つ取付位置を調整可能であることを特徴とする。

【発明の効果】

【０００８】

請求項１記載の発明による作業用頭巾は、頭巾本体の開口部の左右両側にまたがってフェイスガードが設けてあり、フェイスガードが目の周りと鼻及び口の周りを除いた部分を覆うため、保護メガネ及び防塵マスクと併用することで顔面の皮膚の露出が防がれ、顔面のやけどや細かな切創等を確実に防止できる。

【０００９】

請求項２記載の発明による作業用頭巾は、フェイスガードは、中間部で分離可能であることで、頭巾を被ったり脱いだりするのが容易になる。

【００１０】

請求項３記載の発明による作業用頭巾は、フェイスガードは、左右の少なくとも一方の端部が頭巾本体に着脱自在であり、且つ取付位置を調整可能であることで、頭巾を被ったり脱いだりするのが容易であると共に、使用者の顔の大きさ、保護メガネ・防塵マスクの大きさ・形状等に合わせて、フェイスガードを最適な位置で使用できる。

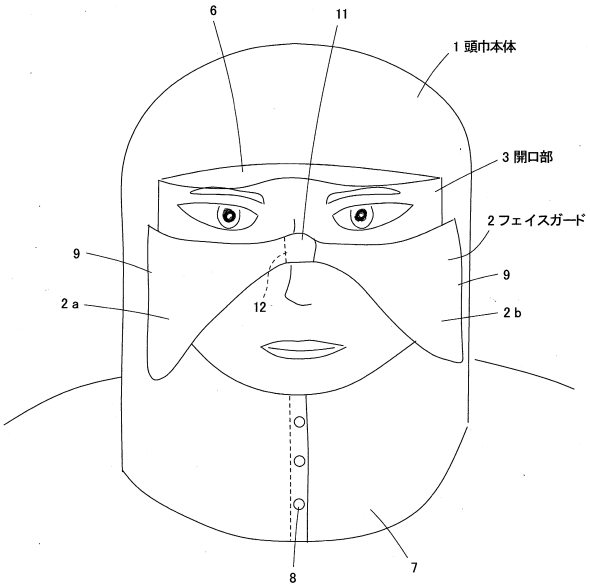
【図面の簡単な説明】

【００１１】

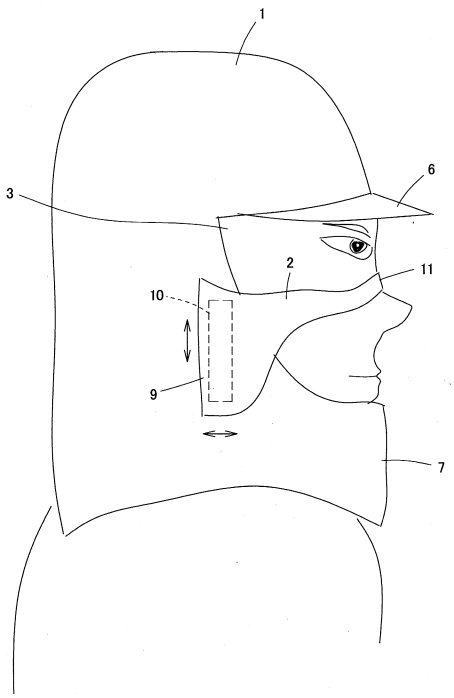
【図１】本発明の作業用頭巾の一実施形態を示す正面図である。
【図２】同作業用頭巾の側面図である。
【図３】フェイスガードとネックガードを開いた状態を示す正面図である。
【図４】保護メガネ及び防塵マスクと併用する状態を示す正面図である。
【図５】フェイスガードの他の実施形態を示す正面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１２】
以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図１～３は、本発明による作業用頭巾の一実施形態を示している。本作業用頭巾は、溶接や金属の研磨作業、ケレン作業等の作業を行う際に用いられるものであって、図４に示すように、保護メガネ４及び防塵マスク５と併用するものである。本作業用頭巾の素材は、綿１００パーセントまたは帆布など耐久性があり比較的熱に強いものを用いている。
【００１３】
本作業用頭巾は、図１～３に示すように、頭部及び首部を覆う頭巾本体１と、頭巾本体１に設けたフェイスガード２とを備える。頭巾本体１は、顔が覗く開口部３を有し、開口部３の上側にひさし６が前方に突き出して設けてある。開口部３の下側には、首部を覆うネックガード７が一体に設けてある。ネックガード７は、スナップボタン等の止着具８により中央部で開閉可能に設けてある。
【００１４】
フェイスガード２は、頭巾本体１の開口部３の左右両側にまたがって設けてあり、目の周りと口及び鼻の周りを除いた部分を覆っている。すなわちフェイスガード２は、ひさし６から５～１０ｃｍ程度下がった位置に設けられ、左右の頬骨の付近を覆っており、鼻の上のあたりで繋がっている。またフェイスガード２は、左右２つのパーツ２ａ，２ｂで構成され、各パーツ２ａ，２ｂの基端部９は上下の幅が広くなっており、図２に示すように、面ファスナー１０により頭巾本体１に着脱自在に取付けられ、且つ取付位置を上下方向及び前後方向に調整できるようにしてある。左右のパーツ２ａ，２ｂの先端部１１は幅が狭くなっており、図３に示すように面ファスナー１２が設けてあり、これによりフェイスガード２は中央部で分離可能としてある。
【００１５】
溶接等の作業を行う際には、図４に示すように、本作業用頭巾を装着した上で、保護メガネ４及び防護マスク５を装着する。上述のとおり、本作業用頭巾にはフェイスガード２が設けてあり、フェイスガード２が保護メガネ４と防塵マスク５の間の顔面をすっかり覆うため、顔面の皮膚の露出が防がれ、顔面のやけどや細かな切創等を確実に防止できる。保護メガネ４、防塵マスク５、フェイスガード２がそれぞれ独立しているため、マスクの呼気に対して保護メガネが曇ることを軽減でき、作業性が良くなる。
また本作業用頭巾は、フェイスガード２が中間部で分離可能であることで、頭巾を被ったり脱いだりするのが容易になる。
さらに本作業用頭巾は、フェイスガード２の左右両端部が頭巾本体１に着脱自在であり、且つ取付位置を調整可能であることで、頭巾を被ったり脱いだりするのが容易であると共に、使用者の顔の大きさ、保護メガネ・防塵マスクの大きさ・形状等に合わせて、フェイスガードを最適な状態で使用できる。
【００１６】
図５は、フェイスガードの他の実施形態を示している。このフェイスガード２は、一体型となっており、その両端部が面ファスナー１０により頭巾本体１に着脱自在に、且つ取付位置を調整可能に設けてある。
【００１７】
本発明は以上に述べた実施形態に限定されない。頭巾本体やフェイスガードの形状や材質は、適宜変更することができる。フェイスガードは、保護メガネと防塵マスクを装着したときに顔面が露出しないように設けてあればよい。
【符号の説明】

【００１８】
　１　頭巾本体
　２　フェイスガード
　３　開口部
【要約】
【課題】　顔面のやけどや細かな切創等を確実に防止できる作業用頭巾の提供。
【解決手段】　頭部及び首部を覆う頭巾本体１と、頭巾本体１に設けたフェイスガード２を備え、頭巾本体１は、顔が覗く開口部３を有し、フェイスガード２は、頭巾本体１の開口部３の左右両側にまたがって設けてあり、目の周りと鼻及び口の周りを除いた部分を覆うことを特徴とする。
【選択図】　　図１

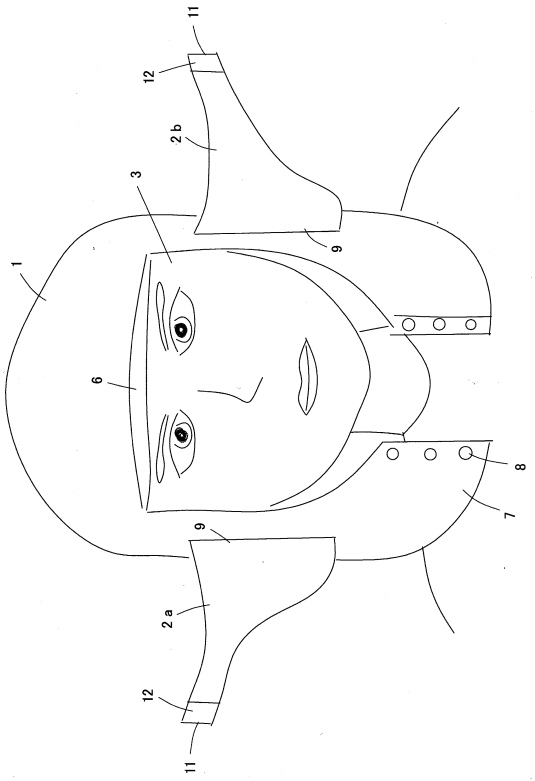
【図１】



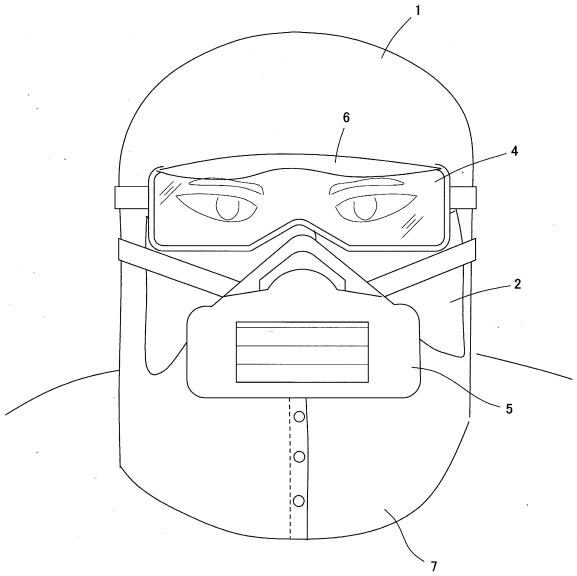
【図２】



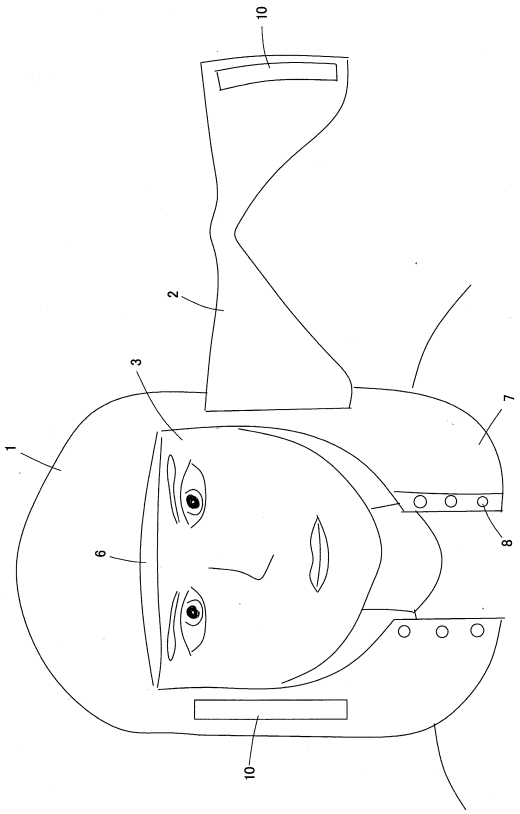
【図３】



【図４】



【図５】



フロントページの続き

(56)参考文献　特開平９－３１６７２２（ＪＰ，Ａ）
特開平１０－１２７７９７（ＪＰ，Ａ）
特開２０１７－１４６４０（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－１７６０３２（ＪＰ，Ａ）
特開２０１３－２５３３４４（ＪＰ，Ａ）
実開平６－４７３３０（ＪＰ，Ｕ）
登録実用新案第３２１０６９０（ＪＰ，Ｕ）
特開２００３－４９３１２（ＪＰ，Ａ）
実開昭５７－３９９３２（ＪＰ，Ｕ）
特開２００７－１０７１４０（ＪＰ，Ａ）
特開２００４－２１５９４７（ＪＰ，Ａ）
特許第６１２８４７４（ＪＰ，Ｂ１）
特開２０１６－２０４８１８（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６２Ｂ　１７／００－１８／０８
Ａ４１Ｄ　１３／０５－１３／１１
Ａ４２Ｂ　１／０４
Ａ６１Ｆ　９／０６